

<センター所長のコラム>

京都大学保健管理センター所長 川村 孝

はしかは小児科医の仕事... などと言っていらなくなりました。大学生もはしかにかかります。はしかの最初の症状は発熱。その段階では何の病気かわかりません。数日後に発疹が出たら確定。でもその前の発熱だけのときに人にうつし、うつされやすいのです。学生諸君も、また学生を預かる教職員も、大学閉鎖などという事態にならぬよう、「かからない、うつさない」を合い言葉に、今のうちに手を打っておく必要があります。

<健康トピックス!>

京都大学保健管理センター 内科医師 安藤 昌彦

大学における感染症：「かからない、うつさない」ために

一般的に子供の病気と思われている麻疹（はしか）ですが、今春は主に関東を中心として大学生の間で流行し、他人事ではないと認識を新たにされた方も多いと思います。いったん流行し始めるとワクチンも一時的に払底して手の打ちようがなくなってしまいます。通常時に予め自分が罹患しないための対応をとっておくこと、また流行時には感染源にならないよう適切に行動することは、いまだきの大学生の責務と言えます。

1. まずは、自分が罹患する可能性を把握

麻疹など感染症の流行時、病原体に接触（感染）しないで生活することは現実的にほぼ不可能です。手洗い・うがい等の一般的な予防はもちろん重要ですが、体内に病原体が侵入した場合の、その病原体に対する防御能（免疫状態）の程度が「発病のしやすさ」に大きく関係します。多くの感染症において、血液検査で抗体価を測定することによって予め自分の免疫状態を知ることが可能です。麻疹の他、風疹・ムンプス（おたふくかぜ）・水痘（みずぼうそう）などについても自分の免疫状態を把握しておくことが強く勧められます。

これらの病気に実際に感染したことがある人は、最も発病しにくい人であると言えます。では、これらの病気の予防接種を受けた人はどうでしょうか？大規模な流行が少なくなり実際の病原体に感染する機会が減った現在では、幼児期に予防接種で獲得した免疫が次第に低下して大学に入る頃には無効になってしまう人がいると想定されています。また、これから大学に入学してくる10代後半の世代では、当時使用された麻疹・風疹・おたふくかぜ(MMR)混合ワクチンの副作用（無菌性髄膜炎）が問題となり予防接種を受けていない人が少なからずいるという問題があります。

こうした状況を踏まえ、新入生ならびに在学生に対して、保健管理センターから以下のお願ひがあります。

上記疾患に対する罹患歴・予防接種歴を把握しておく。罹患歴については家族の記憶を確認し、予防接種歴については一番確実な情報源である母子手帳を見て、予防接種の有無・ワクチンのロット番号を調べておく。

少なくとも明らかな罹患歴がない疾患については、抗体価を測定しておく。抗体価が低く発病の懸念がある場合には、可能な限り予防接種を受けておく（臨床実習・教育実習などの前に、麻疹の他、風疹・ムンプス（おたふくかぜ）・水痘（みずぼうそう）などの抗体価を申告するよう求められるケースが増えています）。

2. もしかして発病？と思った場合の行動は

上記疾患の流行期に発熱や発疹がみられた場合、まずは「自分が発病したかもしれない」と考えて下さい。

抗体価などの情報はちゃんと前もって調べてありましたか？抗体価が十分高いことを確認できていれば、発病の可能性は低いと言えます。そうでなければ、自分が感染源となって（病原体をまき散らして）新たな患者を生み出すかもしれないと考えて行動して下さい。具体的には授業やクラブ活動、アルバイトはできるだけ休み、症状が強ければ医療機関で必要な検査・処置を受けて下さい。病原体をまき散らすのはおおむね発熱している時期であり、解熱後数日すれば通常の生活に戻ってかまいません。学校保健法には、感染症ごとに出席停止期間が定められています。一部の大学でとられた休講措置も学校保健法に基づくものです。もし本学で今後、休講措置がとられることがあった場合は、学生の皆さんはできるだけ不必要な接触を避けて自宅待機して下さいね。

<生活アドバイスコーナー>

かかったことあるかな？予防接種うけたかな？

母子手帳を確認しましょう

母子手帳の予防接種の欄を確認しましょう。

麻疹以外にも、風疹・おたふく風邪・水痘(水ぼうそう)について予防接種を受けたかどうかを確認してください。(麻疹ワクチンのロット番号が「C」で始まるものは、千葉県血清研究所製のワクチンで免疫をつける効果が低いことが知られています)

母子手帳に罹患の有無が記載されていない場合は、家族に確認しましょう。

予防接種の記録(例)

ワクチンの種類	接種年月日	メーカー/ロット	署名
麻疹(はしか)	562.10.2	はしか「 JF917	
風疹(三日はしか)	562.11.7	風しん R0928	

今までにかかった主な病気(例)

病名	年月日(年齢)	備考
麻疹(はしか)		
水痘(水ぼうそう)	3才	
おたふくかぜ	5才	
風疹(三日はしか)		

抗体価を測定しましょう

かかったことが明らかでない疾患については抗体検査を受けましょう。抗体検査にはいろいろな方法がありますから右表に挙げた方法で行うよう依頼してください。



予防接種について

抗体価が基準より低い場合には予防接種を受けましょう。麻疹及び風疹の予防接種は混合ワクチンを用いて接種しますが、いずれかにかかったことのある方は、かかったことがないほうのワクチンの接種を受けてください。

免疫状態確認のための検査法と基準値

疾患	方法	基準値
麻疹	NT	4倍以上
	ELISA(IgG)	8.0以上
風疹	HI	16倍以上
おたふく風邪	ELISA(IgG)	6.0以上
水痘	IAHA	2倍以上
	ELISA(IgG)	6.0-8.0以上

名鉄病院予防接種センター・宮津光伸先生による

麻疹・風疹*	MRワクチン
麻疹	麻疹ワクチン
風疹	風疹ワクチン
おたふく風邪	おたふく風邪ワクチン
水痘	水痘ワクチン

上記のワクチンは、いずれも生ワクチン(毒性の弱い病原体を生きたまま接種)です。複数の予防接種を受ける必要がある場合は、予防接種の間隔を4週間以上あけて下さい。

麻疹に関する情報は下記(感染症情報センター)で見られます。

<http://idsc.nih.go.jp/disease/measles/index.html>